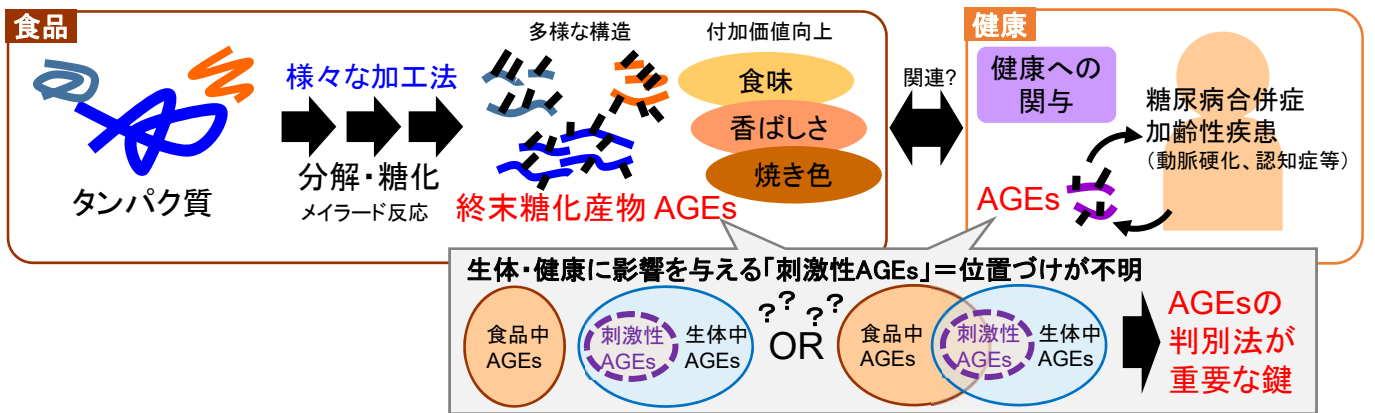
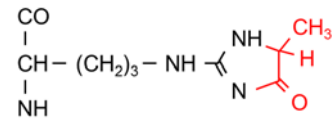


生体に影響する終末糖化産物群の検出



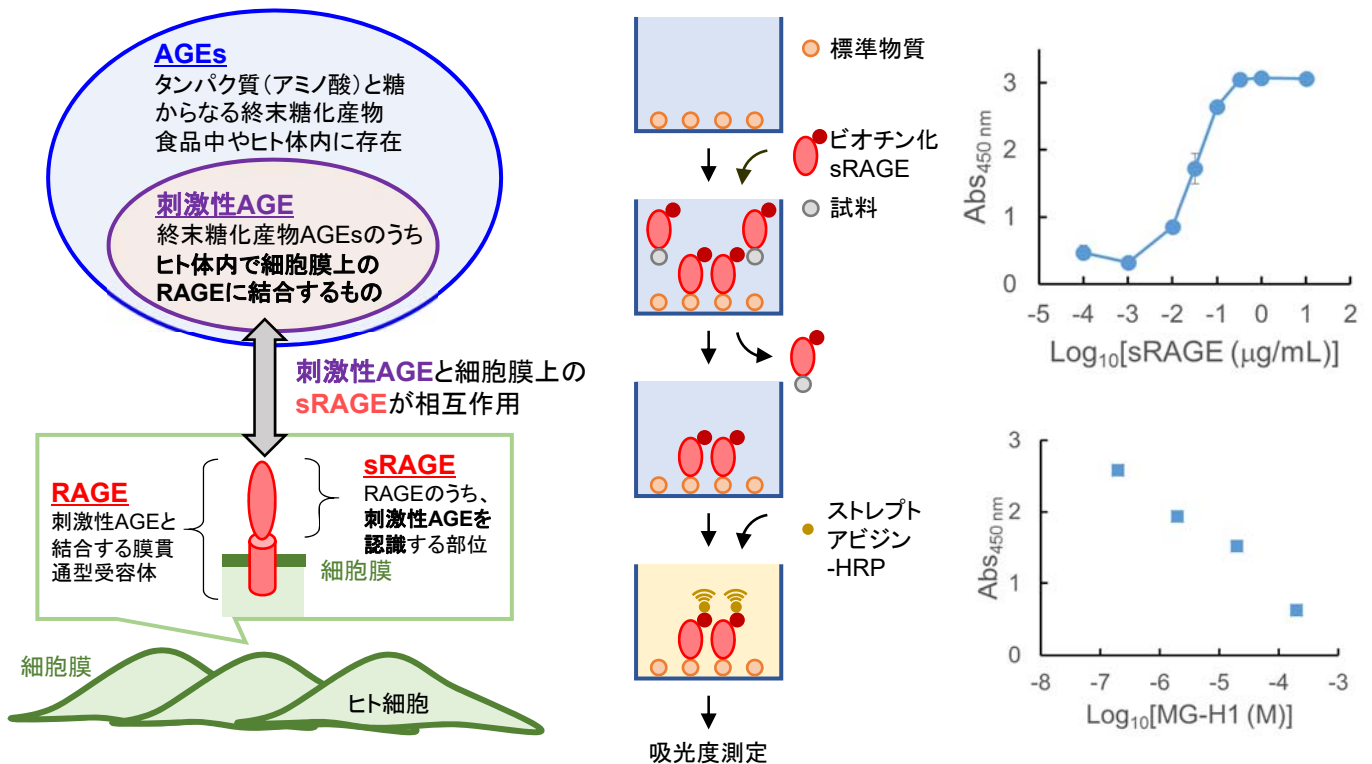
技術の特徴

- 加工食品に含まれる終末糖化産物を、既知の刺激性AGEであるMG-H1当量として評価できる可能性。



MG-H1

研究の内容



今後の展開

- AGEのsRAGE結合活性と細胞影響との相関解析
- 食品試料の分析・評価に向けた技術改良



農研機構
食品研究部門

代表研究者: 小堀 俊郎、町田 幸子
所 属: 食品生物機能開発研究領域
分子生物機能ユニット
問合わせ先: 交流チーム: 029-838-7980